

東北ブナ紀行（80）

奥田 博

宮城県でブナ紀行に戻ります。宮城県でブナ林の量質共に圧倒的なのは蔵王連峰だろう。北の雁戸山から南の不忘山まで良質なブナ林が広がっていた。今は、中腹にわずかに散見されるのみだ。回数の番号がダブっていたので、今回一番飛ばしての附番になります。

125) 南雁戸山 1486m

雁戸山は遠くから見ると、尖ったピークを空に向けて目立つ存在だ。尖がっているが北にある雁戸山と呼ばれる方だが、南雁戸山の方が2m高い。地図上は北の雁戸山の方に名前が付く。南雁戸山のブナは、ブドウ沢林道終点から歩き始め八方平避難小屋の尾根に上がる手前までの間にブナ林が広がっている。

登山口からはブドウ沢に沿って登るが、既にブナ帯。2回の渡渉を経ると、次第に立派なブナが多くなる。高度を上げるとクロベ林も目立つようになる。高度を上げ最後になぜかブナ二次林が現れ、八方平避難小屋に到着した。

コースタイム：林道終点（30分）ブドウ沢渡渉（2時間）八方平小屋（45分）山頂（2時間30分）登山口

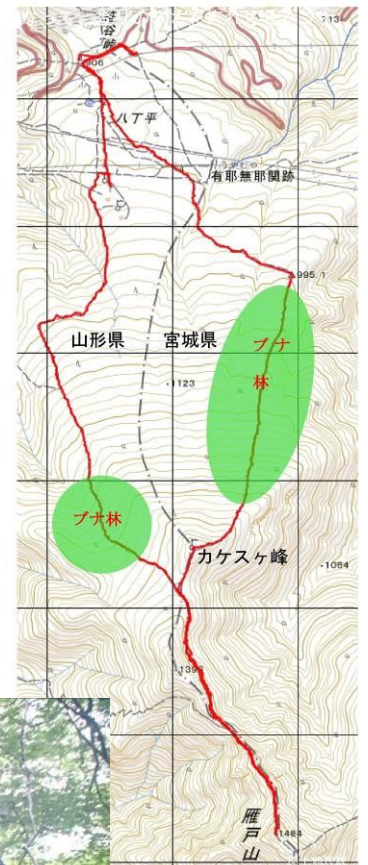


126) 雁戸山 1484m

北側の笹谷峠から登るコースは、人気がある。登りに山形県側を歩き、宮城県側を下った方が歩きやすいように思った。笹谷峠付近は笹原や灌木帯が続き、人工物も加わって樹林帯は標高1100mを越えてから現れる。ブナの見どころは、森林限界の1250mまでなので、本当に短い。山形側は偏西風の影響だろうか、太いブナは少ない。道もえぐられている個所が多く、歩にくい。

帰路は途中から宮城県側を下った。カケスケ峰を越えると、灌木帯を経てブナ林へと入っていく。素晴らしいブナが現れ、足を止めることシバシバ。我々登山者は、登山道周辺を眺めやる範囲のブナを観賞するしかない。従って冬山以外では、登山道から視界の範囲で「見事なブナ」や「楽しいブナ」や「輝くブナ」などを探することになる。我々の目に触れないブナの方が、遥かに多いはずだ。

コースタイム：笹谷峠登山口（2時間）新山分岐（1時間）山頂（1時間）関沢分岐（2時間）笹谷峠登山口



霧に包まれたブナの木も魅力的（左 雁戸山）



上部に登っても太いブナが見られた（右 南雁戸山）